

令和4年度 宮特研 発達専 第1回研究協議会 分科会記録

第2分科会	発達障害による読み書きが苦手な児童への支援	
研修内容	13:20	<p>分科会の進め方について（司会）</p> <p>①小グループに分かれて情報交換（45分） 休憩（10分）</p> <p>②グループごと発表（10分）</p> <p>③質疑応答（20分）</p> <p>13:25 6グループに分かれて情報交換</p> <p>14:10 休憩</p> <p>14:20 グループごと発表</p> <p>Aグループ</p> <p>①入試等における合理的配慮について 別室受験、時間延長、固まる生徒への対応（机を叩いて意識を戻してもらう）、英語の長文問題に枠を付ける、採点での配慮等が認められた。</p> <p>②業者のテスト 依頼するとルビを振ってもらえる。</p> <p>Bグループ</p> <p>①LD 通級の現況について 通級入級のステップが多い。地区で差がある。</p> <p>②不登校児の対応について 発達障害と不登校の問題は隣接している。</p> <p>③読み書きについて スマイルプラネットの漢字プリント、デイジー教科書（教科書関連図書の夢文庫）など</p> <p>Cグループ</p> <p>①読みの伸びの評価が難しい。</p> <p>②週1～2回の指導では身に付けることが難しい。 →保護者を巻き込む。 家庭環境にも働きかけ、親子の関係をよくしていく。面談や連絡帳を通してペアトシ的な関わりを持つ。</p>



③漢字

成果が見られない。どの教材が本児に合っているのか分からない。→2学年前に遡って指導

Dグループ

①漢字指導

漢字忍者、漢字の筆順アプリなど ゲーム感覚で楽しませながら

なぜ苦手なのか実態把握をする その子にあったものを選び、必要感を持たせながら

②読み

教科書にスラッシュを入れる、一緒にルビを振るなど、少しずつ読む練習を

③予算

担当が自腹を切っているという現状も

Eグループ

①各学校の現況

一人で大人数を受け持つ苦労 事例から学ぶことや気付きもある。

②読み書き

教材→MIM、スマイルプラネット、おもしろ漢字辞典
アセスメント→K-abcⅡ、小池先生（尚絅大学）の簡易アセスメント、STRAW、WAVES

③読み書きの指導における長期的な見通しについて

漢字なら何年生まで読み書きできるようにしたらよいのか。

読むを主眼に置くのか、書くも入れるのか。

読み書き支援の自力を高めるトレーニングと自己支援をしてくれる代替手段を使いこなすスキルのバランスについて知りたい。

Fグループ

①使ってみてよかったアプリ

伸びを数値化して見取る→URAWSS、ELC

②担当間のネットワークについて

特支とも違うので、このように話せる機会が少ない。

インターネット上でもよいので、気軽に話し合える場が

ほしい。

教材、教具、本などもどこかにいけば見られるような場所があるとよい。

沖野小堀越校長より 県の方へ質問

Q:仙台市ではクロームブックを使用しているが、県で使用しているものは？

A:iPad を使用。Google Chrom も使用可。

14:50 質疑応答 齋藤道美先生より

- ・漢字 資料参照のこと
- ・参考書籍「読み書き障害（ディスレクシア）のある人へのサポート入門」

著者 河野俊寛 平林ルミ

- ・「平林ルミのテクノロジー

ノート」（ウェブサイト）も必見。ITC 支援が多く出てくる。

・本人に合う指導とは…本人が苦にせず続けられるもの。家庭でも継続学習ができる。

・漢字…感覚的に小学校4年生程度まで書ければ良いのではないか。書くより読むに重点。テキスト入力と見て書く力があれば良し。

小学校低学年なら…眼球運動トレーニング、点つなぎ、形や位置を捉える学習も有効

- ・事例①4年生までは文字が読めなかった生徒（複視）

4年生からはぐくみへ ビジョントレーニングなどで大分読めるようになった。

中学生からリーディングトラッカーやカラーボールペなどを使用して、中3では小説も読めるようになった。

→その時々、その子に応じた支援をすることが本人の力を高めることになる。

・ツールを利用して楽になるなら利用するとよい。時間と労力を減らすことで、他の子と同じ土台に立って勉強できるようにすることが基本

- ・予算

仙台市は多いが、備品が買えない。

- ・不登校



	<p>通級だけ、または通級と別室のみという生徒が約3割いる。</p> <p>原因…人との関わりの難しさ、学習面での困難が隠れていて個別に見てもらえなかったから分からなかったというケースも。通級に来れば、見てあげるチャンスになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例②在籍校の教頭から市教委への問い合わせの結果、配慮が認められた例 ・事例③テストの読み上げの配慮をしてもらっている中学生の例 <p>15:05 閉会</p> 
<p>参加者の声 感想等</p>	<p>○読み書きに困難を抱えている児童へのアプローチの仕方について、学べることがたくさんあった。</p> <p>○悩みを共有し合った上で、有効な手立てや参考になる書籍、指導方法を教えていただき、大変勉強になった。</p> <p>○生徒一人ひとりの実態を把握して、その生徒に合った方法で合理的配慮をすることが必要だということが分かった。</p> <p>○小グループでの情報交換だったので、気さくに話げできたことが良かった。活発な意見が聞かれて、とても元気付けられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●齋藤道美先生の実践が興味深かった。ご本人の解説の下、もっと長くお聞きしたかった。 ●時間をもっと長く取ってもらいたかった。 ●知りたいことについてもっと学習したかった。